

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070101199		
法人名	医療法人社団 清宮医院		
事業所名	グループホーム 山王の家		
所在地	群馬県前橋市山王町133番地		
自己評価作成日	平成24年9月24日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成24年10月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

のんびりゆっくり楽しく過ごしていただけるよう取り組んでいます。同法人施設の協力体制の中、医療面でも安心して生活していただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人が経営する隣接病院の医師や看護師との緊密な連携のもとに、職員は日頃から入居者の心身の変化に対応することができ、十分な健康管理が行われている。重度化や終末期を迎えた時は適切な介護と看護が行われ、常時医療行為を伴う場合以外は、事業所で看取りを行っている。また、職員は理学療法士や作業療法士の指導を受け、リハビリテーション病院の設備を利用し、入居者の「よくなりたい」気持ちを大切に、機能低下防止のため、日々リハビリに取り組んでいる。入居者の思いや意向の把握は、1対1となる入浴や夜勤時に傾聴の姿勢で思いや希望を聴くよう努め、難聴のため周囲の人達の会話の内容が分からない人には、不安を取り除くよう耳元で話しかけるなど、安心して日々過ごせるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりがが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	人としての尊厳を尊重し安心して自分らしい生活を、地域の方々にも支援を受けながら営んでいただくことを理念とし、玄関および事務室に掲示している。出勤時には一読し、理念に沿った支援をしている。	開設時の理念に、地域との連携を加え、家庭的な環境のなかで個々を尊重した支援・残された能力を最大限に活かした支援を掲げている。理念はタイムカード機の上に掲示し、出勤時に読むよう指導し、理念を基にした支援を心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の小学校の行事(運動会、ふれあい祭り等)に参加したり、音楽演奏などの地域ボランティア慰問時には交流の機会を持っている。また当ホームの行事に近隣の方がボランティアとして参加していただいたり、散歩などの機会を作り挨拶や話しかけを行っている。	散歩や日光浴の時に、通りがかる方達と挨拶を交わしている。近隣の小学校から運動会や文化祭の招待状を頂き見学に出掛けたり、中・高生の職場体験を受け入れたりしている。家族交流会では運営推進会議のメンバーである近所の方数名が手伝ってくれるなど、地域との交流促進に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学生や高校生の職場体験やボランティアなど定期的に受け入れ、認知症の方と触れ合ってもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	議題に上り課題となったことは次回の会議までに取り組み、その結果を報告している。会議報告はご家族のほか、どなたでも閲覧できるよう、玄関掲示板に貼っている。	運営推進会議では活動報告等を行い、意見交換では「ボランティアの受け入れ状況」や「他のグループホームとの交流状況」「防災対策」等の質問があり、次回会議までに資料をとりまとめ、その状況や事業所の考え方を報告している。	外部評価を受けない年も自己評価を行い、運営推進会議の議題とするなどとして、そこでの意見をサービスの向上につなげられるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	わからないことなど電話などで相談したりご指導いただいている。	外部評価の隔年実施等について相談し指導を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。電子ロックの扉もあるが、職員が見守りをしているので普段は使用していない。	身体拘束セミナーや高齢者虐待防止研修会に毎年参加し、法人が主催する年2回の研修発表会で参加者代表が発表すると共に、事業所のケアカンファレンスで報告して、身体拘束をしないケアについて共有している。ベッドから転落する危険のある人には、寝る位置や枕の位置を工夫し、見守りを行うなど身体拘束をしないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同法人施設全体で研修の機会を持ち向上を図っている。また外部の研修にも参加し意識を高めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加させていただき、必要なときは活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ゆっくり時間を取り話をしている。老人保健施設の責任者からも説明し、理解・納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の皆様やご家族の気持ちを聞く機会を持つようにしたり、気持ちを察するよう心掛けている。同法人施設の職員と接する事も多く、気持ちを伝える機会もある。	入居者には、日々のケアの中や1対1になる入浴・夜勤時に、意見や要望を聞いている。家族には、面会時に入居者の様子を伝え、要望に沿い散歩の機会を増やすなどしている。また、入居時から法人の理事長や事務長等が関わり、入居後も診察時や利用料の支払い時に意見や要望を聞く窓口となっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の会話の中や会議の場でも意見を言い、話し合っている。	ケアカンファレンスで職員の意見を聞き、休憩時間の取り方や入居者の誕生日プレゼントについて話し合いを行っている。各種の研修受講は勤務時間として扱い、看護師や社会福祉士等の資格取得には勤務変更等の便宜を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	時々様子を見に来るなど、状況を把握している。資格取得への配慮もしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に様々な研修の案内をし必要な研修に参加する機会を設けている。研修後は復命書を提出し、老健と合同の年2回の研修を兼ねた会議にて研修報告することもある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や施設間の見学などの機会を持ち交流を図り勉強させてもらっている。また電話などでも情報交換を行い支援の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活史やサマリーなどの情報提供書の他、担当者などからの情報を得て介護に反映している。一緒に過ごす時間を増やし気持ちを傾聴するなどして安心していただけるようにしている。また代表者や同法人部長なども相談を受け対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時などゆっくり話をする時間を設け、ご希望等を伺うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームだけでなく、法人の施設全体としてサービスを提供している。ご本人、ご家族と相談しながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の中で利用者様から教えていただくことは多い。一緒に過ごしながら学ばせてもらい支えあっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などに様子をお話し、ご本人やご家族の気持ちに添えるよう一緒に考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の方の訪問がありまた来ていただけるような対応を心がけている。外出の際は馴染みの場所を通ることもある。	知人が訪ねてきたり、入居者が今までよく行ったことのある観音山の桜や前橋のバラ園を見物したり、花木センターなどに出かけたりしている。また、家族の協力を得て馴染みの美容院や食堂に行ったり、地域の敬老会や新年会に出席したりするなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールの席や、レクリエーション時の場所などにも関係を考えて決めている。また職員は常に利用者様の様子に気を配り対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人として退所後の相談、ケアも行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望を聞く機会を作ったり、会話や行動の中から要望を見つけ対応している。	日常の会話や1対1になる入浴や夜勤帯に、傾聴の姿勢で入居者の思いを聞くよう努めている。難聴のため周囲の人達の会話の内容が分からない人には、不安を取り除くよう耳元で話しかけるなど、安心して過ごせるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報や日常の中から情報を得、対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や申し送りにて全職員が情報を共有し、状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にケアカンファレンスを行いご本人やご家族の意向も考えながら検討している。また状態変化時には常に意見交換を行い、それを反映しながら介護計画の作成をしている。	毎月行うケアカンファレンスで、本人や家族の意見や希望に沿った支援について全入居者に対して検討をしている。3ヶ月毎にモニタリングを行っているが、介護計画書変更時のモニタリングが記録されていない。	介護計画書変更の基になるモニタリングを記録されるよう期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録を記入している。口頭やノートでの申し送りをし情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームだけで対応できない場合などは老健等のサービスの利用や協力を得ながら、個々のニーズに対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れや教育機関との交流など老健と一緒にやっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご希望の主治医による往診が行われている。また同法人の医師にも随時対応していただいている。ご希望により通院の支援もさせていただいている。	契約時にかかりつけ医の受診希望を聞き、希望がない場合は家族の了解のもとに法人が経営する隣接病院の医師が月2回往診し、緊急時は24時間往診している。また、整形外科・皮膚科の医師も勤務しており受診できる。担当看護師が日常的に訪問し職員の質問に応え、入居者の健康管理にあたっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	老健の看護師に日常的に関わってもらっており、相談したり指示をもらっている。医師との連携も図ってもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院と連絡を取り状態を把握するとともに、連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の変化時など、ご家族と連絡を取り、時には医師や看護部長も交え話し合いをしながら統一した対応を取るようにしている。	入居時に「重度化した場合に係る対応指針の同意書」を取り交わしている。医療的処置が必要な場合は入院対応としているが、重度化や終末期を迎えた時は医師・看護師・家族との連携のもとに看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応については随時話し合い、マニュアルに従って行動するようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施している。また地域の方々に防災協力員をお願いしている、	年2回、隣接の老人保健施設を火元に夜間想定を含めた避難訓練を行っている。地域の人達とグループホームの「地域防災協力員」体制が築かれ、連絡網が整備されている。なお、平成22年度の「目標達成計画」にホーム独自の避難訓練の取り組みが計画されているが実施されていない。	地域防災協力員と連携し、目標達成計画の取り組みが実施されるよう期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の状態や歴史を大事にし、丁寧な対応を心がけている。	他の入居者の前で恥ずかしい思いや嫌な思いをしないよう、共有スペースでの話をさげ、さりげなく居室に誘導し1対1で話している。また、話を否定しないよう職員を指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が話しやすい雰囲気づくりをする とともに、飲み物の選択など日常の中でご希望を伺うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースの合わせるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人一人の希望にそった援助に努めている。 出張理美容サービスはご希望に合わせて利用してもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べ物の好みを聞きメニューに取り入れた り、用意や片付けを手伝ってもらうこともあ る。調理レクとして一緒に作って楽しむ機会 も多く作っている。	法人が運営する老人保健施設の管理栄養士 が作成する献立を基に、入居者の希望や季 節の新鮮野菜を取り入れた食事を提供して いる。季節毎の行事食は、職員と入居者が おはぎや太巻きを一緒に作ったり、時には入 居者がうどんを打ったりしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を記入し個々の食事を把握して いる。形態なども個々の希望や状態に合 わせてその都度対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。見守りや声 掛け、援助など個々に応じて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し個々の状態に合わせて援助している。オムツ使用を減らすことやトイレの使用など全員で取り組んでいる。	「排泄チェック表」に基づき、個々の排泄パターンを把握しトイレ誘導を行っている。トイレで気持ち良く排泄するために、できるだけオムツ使用を少なくするように、支援方法を統一し、排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量に気を付け乳酸菌飲料などの食品も利用している。リハビリや散歩など体を動かす機会もついている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の希望に合わせるようにしている。希望されない時は様子を見てお誘いしているが、無理強いのない対応をしている。	入浴チェック表で、2日おきに入浴できるよう支援している。体調を見ながら、会話を楽しみ・せかせせず・ゆっくり・気持ち良く入ってもらっている。また、入浴の順番にも配慮し、嫌がる人には声掛けの方法や時間を変えて誘う等の工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	様子を見ながら声掛けをしたり、個々のペースで休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のカルテに薬剤情報がはさんであり、すぐ確認できるようになっている。薬剤師にも相談したり指示をもらったりしながら情報の共有をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出、外食などの楽しみや裁縫、調理などを得意とする方への働きかけ、また洗濯物たたみなどは日課となっており頼りにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の希望も聞きながらドライブ、外出、外食などを行っている。天気の良い日は日光浴や散歩に出かけている。またご家族との外出はいつでも出かけられるよう支援している。	気候等をみながら、散歩や日光浴を行い、介護記録に記載している。外出行事等の年間計画を立てず、入居者の希望を尊重しながら、弁当を持参したドライブや外食など臨機応変に対応している。また、家族の協力を得て、地域の敬老会や新年会に参加したり、馴染みの食堂に出かけたりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持している方は把握し見守っている。ご家族とも連携を取っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望はほとんどないがあれば支援していきたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や作品を飾ったりしている。清潔を保ち居心地良く過ごしていただけるよう気を付けている。	共用空間や居室は、毎日職員が丁寧に清掃し、臭気が無く清潔に保たれている。玄関や居間兼食堂には、作品展で入賞した入居者が製作した「はり絵」や外出時の写真が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや廊下にソファが設置してあり、好きな様に利用していただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家庭から馴染みの物を持ってきている方も多し。居室は好きな様に使用していただいております。ご本人やご家族と相談し使いやすい配置を考えている。	居室は自由に使ってもらおう話しており、冷蔵庫やテレビが持ち込まれ、愛犬が印刷されたカレンダーや孫の写真が飾られている。小さな鉢植えの植物を持ちこみ、水やりを楽しんでいる人もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレには名札がありわかりやすくなっている。廊下は手すりがあり広い。見守りや付き添いで安全確保に努めている。		